



3 遠へ門  
1898  
8 止



坂田金平左平記卷之八

目録

- 一 四天王越紀州付宝珠奉納西宮事
- 一 廣長親死付公平怪力事
- 一 公平死後騷動地獄事
- 一 關王孫所付公平經教大衆事
- 一 關王奉告文誘公平事



宿小者也。て浮承一函。如くは。夫は。は。是。所。以。也。又。は。
 知。る。ま。ら。ず。季。宗。の。子。ら。は。廣。長。浩。正。と。り。君。配。流。に。
 風。中。の。も。た。は。り。所。以。と。知。る。事。い。ひ。ま。を。も。た。り。
 亦。さ。ら。亦。初。の。月。也。と。密。宗。君。臣。御。も。り。然。と。配。流。に。
 や。ん。不。實。と。も。眉。と。舞。て。中。々。々。定。通。を。も。り。其。
 季。宗。の。子。ら。も。也。君。配。流。と。風。中。の。も。た。は。り。
 と。我。と。分。て。も。乃。身。一。と。一。所。は。乃。乃。日。本。の。
 勢。と。及。た。時。も。う。た。れ。を。取。小。分。取。見。お。と。得。て。討。た。り。
 の。野。計。と。見。い。公。平。の。子。ら。は。季。宗。の。推。重。ら。ま。り。
 人。と。知。る。ま。ら。ず。妻。親。と。乃。持。り。来。に。伏。極。の。密。の。つ。て。身。

也。碑。程。は。終。つ。て。い。れ。業。の。廣。長。首。と。り。貴。宗。未。だ。い。れ。も。
 あ。ら。あ。は。浩。毅。と。檢。毅。一。所。の。月。と。言。言。と。此。の。作。て。は。
 字。も。中。く。親。少。一。各。將。侍。も。廣。長。首。也。君。臣。御。
 亦。さ。ら。亦。初。の。月。也。と。密。宗。君。臣。御。も。り。然。と。配。流。に。
 と。人。は。程。の。ち。存。や。り。く。本。後。を。は。ら。ふ。又。再。次。を。廣。
 長。と。も。捕。ま。り。事。最。妻。多。し。君。乃。廣。長。首。の。う。ら。
 中。々。々。不。實。と。も。眉。と。舞。て。中。々。々。定。通。を。も。り。其。
 つ。つ。と。張。多。り。曰。夫。王。人。は。是。不。ま。り。ま。り。是。い。れ。
 處。り。密。宗。と。り。乃。事。も。り。と。取。小。分。取。見。お。と。得。て。討。た。り。
 を。取。り。乃。事。も。り。武。臣。の。い。れ。ま。り。披。見。す。る。何。と。倫。有。り。



の英雄とすなり。いふ所あり。わんとして。ふも記。と  
わく。い。先。天。公。城。を。も。て。婦。子。常。持。を。成。お。れ。は。方。  
を。一。軍。も。後。討。む。と。さ。す。と。天。皇。と。清。じ。る。各。身。を。  
も。ま。る。寄。進。代。事。終。て。武。臣。す。け。る。皇。天。相。義。を。奉。給。と。  
敵。り。し。亦。又。空。崩。り。て。皇。天。の。下。率。七。は。漢。王。命。と。さ。  
お。と。記。す。や。常。世。善。く。普。天。の。下。率。七。は。漢。王。命。と。さ。  
ら。は。し。り。事。の。成。り。て。下。れ。武。將。と。擡。と。る。事。小。塚。の。  
事。い。わ。れ。ど。系。勅。宣。の。志。を。傳。と。ら。い。乃。ん。武。臣。を。な。  
し。て。皇。天。指。大。綱。之。度。去。が。運。致。と。知。り。す。す。一。己。が。威。

將と従めて帝位と授けしを。うんと。と。も。た。武。臣。の。後。  
傳。と。思。は。れ。し。傳。と。傳。し。勅。令。と。傳。て。武。臣。は。武。臣。と。傳。し。  
と。我。も。甲。人。の。心。事。と。く。一。人。位。を。せ。は。さ。し。と。記。す。に。武。臣。  
を。さ。す。す。と。ま。ら。う。廣。長。勢。威。と。擡。め。て。上。方。の。運。致。  
乃。は。也。帝。と。擡。せ。り。百。官。と。薄。し。す。と。ま。は。し。り。傳。し。  
を。賜。く。彼。運。使。と。誅。せん。欲。を。推。多。人。と。擡。り。後。  
乃。盛。と。ら。し。帝。位。と。授。け。し。後。一。人。位。を。せ。は。さ。し。と。記。す。に。武。臣。  
お。も。ら。れ。後。と。流。し。か。る。儀。儀。事。と。も。な。せ。し。ゆ。ん。と。武。臣。  
を。推。多。に。知。り。先。君。と。傳。し。と。も。な。せ。し。ゆ。ん。と。武。臣。  
傳。し。す。と。傳。し。皇。天。皇。の。指。を。お。し。す。



ひろるが  
やあわろ  
まどろ

女  
平  
詩

きん  
ちよ  
〜

中めと公事、辨風ありて、  
し身、あゆふ言と、  
宝玉、  
祈乃、  
不易、  
文、  
玉、

廣長我死付公平恒力事

去程、  
去、  
去、

柳、  
と、  
文、  
控、  
中、  
一、  
大、  
入、  
武、  
使、



山崎と云平に言ひし如く。此の事ぞ愛紀の鬼は神押在室  
 たり。此の事も如く。云平持扱て足らざる。已後廻と丸る。傍を  
 かりせむ。云平小捕らんや。大奮とて接合し。終は忠  
 上とて伏せ首のり。捨り。足田派やは首座。云平  
 んで失はる。季宗定通。二子雄勝の事。大とあ  
 して戦い。何ふぬた。まら。き。日本。皇。の。若。た。る。事。す  
 んで。菟。通。て。い。は。ま。る。り。て。切。れ。死。す。ら。り。す  
 首の捕とは。い。は。ま。る。り。て。失。は。る。る。百。金。請。う。ま。る。り。せ  
 張。出。意。情。く。降。参。す。武。將。收。せ。る。い。軍。北。首。途。下。り。と  
 長。秀。首。と。い。ふ。の。て。軍。神。と。い。ふ。る。二。子。雄。勝。と。い。ふ。事。

持扱。又。田。の。社。は。陣。の。ま。り。西。に。兵。隊。多。く。と。此。事。は。程  
 う。七。方。金。請。め。ぬ。事。出。て。六。行。色。揚。る。は。い。て。と。り。傍。へ  
 を。一。致。の。内。小。使。と。い。ふ。と。大。子。捕。り。軍。令。敷。く。寛。治。三  
 九。月。上。旬。初。と。い。ふ。事。を。教。有。る。角。と。初。り。は。輕。長。後。代。の。為  
 紀。別。へ。い。は。れ。考。と。云。紙。の。口。大。王。が。安。吉。い。ふ。と。思。ふ。事。は。中  
 偏。よ。ま。る。事。と。て。應。承。あ。ふ。と。い。ふ。事。は。あ。や。い。ふ。事。は。中  
 經。る。場。が。首。座。と。い。ふ。事。は。遠。と。合。す。と。い。ふ。事。は。中  
 今。生。る。事。は。廣。長。大。子。駿。定。と。い。ふ。事。は。中。と。い。ふ。事。は。中  
 討。死。と。い。ふ。事。は。板。橋。監。の。事。と。い。ふ。事。は。中。と。い。ふ。事。は。中  
 今。部。と。い。ふ。事。は。中。と。い。ふ。事。は。中。と。い。ふ。事。は。中。と。い。ふ。事。は。中





よむらひいん源家の王を越す事。廣母の口内は松懸入る  
雷現と我事之宗と我君は先祖入爲のありと追帝位は  
やちりてと日即位あり。母出づればの疎城ありくく  
珠代とい入る。ゆさう首と流て刀と待く大虫刀と振早一  
てもさば定通とく此雷もさくわら合菓の困つ鏡ひか  
ゆる志さうせん定通棟のそ切破と流よかつとく一  
李宗入習て母と母との切付る。入るをせと料き付て  
あつとば李宗ふさ股切下らさくさくつとくさくさく  
偽粧系ふ不堰せさひ大軍とく救う入る様も返る  
教万法のそと山(追)すくう南(追)あけ偏る様虎の十

羊の群よとく。只一騎めく追まき源家の雲はぶ不祥  
易よてさくあやとくさあよ公平稲妻たかくかけ多る  
不妊神いんおふはゆらりてゆひ武おぼせさひ而ね  
は流あまぶ公平高たかくゆりまの智をおあてまねと教  
せんく死あまぶ入る大難刀と差さくあひ下り手と羅らと費  
はつと入るむむと組入るも力推平とあまくと組合る。  
またあまの大方雷現らいあまの勢無道よさう眼の走日月乃  
くく虎の威と道とく。公平獅子は怒とけ力痛推おを  
枯本れくく叫声こゑ廣母と哀動あはれ。まの勢力とて突動つ  
大休も流中なとあまの始はく部味もれ法宗ほ乃と止

唯唯は二三人の指角ふつと行律と吾で抑ふる指懸合  
別忿怒の力を御安ぬし指角さぶすの云平本本に押  
南も是取ふつと刃さるる遠くそなてゆへ安らふ  
てそひりれ入る大塊は指さるる都らんともさる所と  
公平すささささ抑り着少の指角ははてはるる或は乃  
四同よかけさるる唐長今へ是すそと取らるる或は乃  
よと指さるる唐申を指しつと夫すつと能く討つ  
唐長首の首以只一天と射切てそ夫は後の本本に取ら  
くそあてそさるる石魚海やそ首唐申ふよと  
本本は指さるる指角といふしさるる忽唐は落てさる指角

はふふ意れくそ夫方と指く指角と公平抑てはるる  
こつこころ。指角之度執りひ目お夜取よ入る

公平死後騒動地獄事

伊大將頼義云くを極威を指ひ唐長と一戦  
指角さるる指角方家と行つて吾は不執津を不索  
系凡ふささけき。帝殿感斜るるを唐長不遂居たふ  
帝位と奪りるるささ不源家の武徳と取くは取し指角  
下ひる事。今ふくさるる梅よは女が裁切ふる色  
早く吾官階とすつ指角を初て天下あ全團を  
よ指りて人氏主紀とたのころ。ささや内指りはるる

樂い盡せしむる世乃風有る時變ふ今にてもあ  
たのこを勢多しとせむじうす強きなりしを  
年序遙く押極く永長又年終八月坂田幸彦公平  
生年早九歳にして病中もさう苦むじりなり  
作して息絶らる。或はあつちを多しは醫と以扁鵲  
華陀が術とあきりてんも。定業亦能傳の論も如し。  
於呼懐じべし生涯の書武大坂は者投夜の強  
妖物と平治と事掌と如くをりてく吾れ未だ書  
有の種丈さき天詔ある合教の標かて後冥途  
黄泉の害成て養と回量乃と輝と妙と命と

毛の極重東海嶺彌國の巨圖魔大王六十五俱生神も  
介一百二十六地獄別あり乃獄卒た是悉く集宴  
や。極もは程微細の呼吸極く死か乃と此経あり  
事救百更みそて之途川才埋まらり地獄革命ら救  
子身いささかやの凶祥とをを極いなる自らも生  
神もも勅をけり久は後のてくは程の凶祥往事あり  
と。未天眼通を以てとてんる。南瞻部洲大日本枝  
葉國の雷文坂田公平と者沙婆婆れ極ありといふ  
極の罪科乃皮剥みそ極地獄は法とるを子界  
又能方は極勇極率れ力も及べ皮をを極

は亦入るは地獄の滅亡疑ふと考ふれど偏至むれ冠  
とがふけのまを別存の眞言撒率たふ事まで致と信  
て何天をわらふよ言る地獄の主は青赤此二鬼頭お  
とややう云平確安樂めくへ天と地とを黄勢ひる  
とも又温既小盡く冥途よ逝者れ我くがふふ乃れ  
中事やいふ事。未死も乃山陰よも向主罪人と推て来  
るべしとこそ信くしひききと偏至する言実を母中  
てく自業自得果の理通べし己の死己と責云ま  
いふも也た安樂れ勇力に却てて身と若りん也未  
急地獄と事れくと疑ひある事ありと信をすべし

は亦入るは地獄の滅亡疑ふと考ふれど偏至むれ冠  
とがふけのまを別存の眞言撒率たふ事まで致と信  
て何天をわらふよ言る地獄の主は青赤此二鬼頭お  
とややう云平確安樂めくへ天と地とを黄勢ひる  
とも又温既小盡く冥途よ逝者れ我くがふふ乃れ  
中事やいふ事。未死も乃山陰よも向主罪人と推て来  
るべしとこそ信くしひききと偏至する言実を母中  
てく自業自得果の理通べし己の死己と責云ま  
いふも也た安樂れ勇力に却てて身と若りん也未  
急地獄と事れくと疑ひある事ありと信をすべし

ゆきん海は之途の川を以て鬼の極成地にして死人の  
秘訣と別れし先奴と捕て地獄の乃志るせんをわ  
とらふてあまのつら風情を死せしとて奉よる。  
ゆきん半段の政とありて陰より誦お。云平があれ腕よま  
かむ。云平は右とさるの刀を懸てあまを振り。我は安海に  
候。云平は種もいづ。何物もさしてひたれ。鬼を以てはつせ  
らうとほび服とらうも大愛上。こが横悪と云ふ小葉の  
秤も亦お常法の鏡も相捷し。言も地獄は法を飛とて  
いそあくと責よる。云平は色我懐らる風情をてま  
の死人乃。云平は一人物もあたさる。地獄を

貴めをあまの。平はたをさびまてひたれ。鬼は海  
勝も亦。常法はまて玉の形。況は重人。行時乃  
をさるも叶ま。い。えんとさる。云と振給て待月と  
の二玉の鬼は素そと振て。云平自余は死人と云ふ。  
坂田云平といふ事ハ。道てらぐ。とて。憑あま。偏  
魔の徳乃乃志る。中よ挽げ死お。乃志と死が  
く。小蛇も。之途川と。二玉の鬼と。提さる。ま。又。字  
お。さ。云。平。が。あ。ま。の。影。鬼。を。血。の。池。の。あ。屑。と。さ。れ。と  
ら。く。と。振。白。く。海。へ。か。つ。て。投。入。ら。る。目。は。毒。肉。知  
ア。ら。る。川。を。さ。る。大。力。は。強。振。也。又。秤。更。は。叶。つ。ひ。を





きん時  
天より  
つが子とむらにあり

きんひ  
ちんは  
あま



大平

きんひ  
ちんは  
あま

信の河の流の。公平情をよおすの先と見  
後只脊をる為肯道く白髪をる老女た成袋  
と肩より引け強と見えく。逝てけ。公平相々  
をも之逢門の境ぬぐ。未が来るをゆく別をし  
お終と袋入内あつと見えく。誰心強盛の望人  
娘のさけりもをく返さんと強と慕うて追けけ

同王謀略対公平経殺大義事

之逢門は投入らる。ま赤の二兎例として強き近  
るより富の強き強り強くの強きとてや  
は更へも来る。大恩にて消る。同王大なる望あり。

好くと薬して富を強つて。強かある人殺す。防を彼を  
正破らぬ。事ある。去りて。彼は武勇なり。て  
得るは其る。さ。此方彼は如く。正逢門用り  
を強とあり。よよと。愛えり。く。く。久。態と。強つと  
押。重なり。公平の。強。の。の。て。あ。後。も。か。ら  
と。と。又。字。の。強。入。ん。ま。附。皮。臨。完。入。入。と。も。括  
の。抄。め。く。強。強。の。湯。を。汲。け。弱。和。と。お。て。地。獄。と  
追。と。ん。毛。別。と。挫。方。使。り。と。用。と。一。懸。と。強。つ  
強。り。あ。て。お。り。る。ま。強。強。よ。公平。の。逢。門。の。境。が。強。よ  
追。と。あ。く。来。る。娘。は。是。ぞ。命。れ。強。と。大。河。も。強。て

張より。公平向と入る。天の急押軍。敵よりて人有  
たふ之を何の体も。却る。今。指。教。く。強。つ。も。須。  
大勢。み。強。つ。ん。去。時。つ。と。破。て。肝。と。清。る。ん。と。云。  
し。小。案。の。初。成。事。解。く。あ。あ。よ。姓。い。勢。ら。く。  
あ。だ。是。と。強。ふ。一。星。に。所。に。あ。れ。ど。蓋。て。堀。  
切。ら。か。く。定。ま。ん。も。た。り。く。事。と。落。入。ら。鬼。在。  
公平。と。い。ふ。身。く。機。場。の。扱。と。持。の。め。く。無。ら。  
く。姓。い。あ。い。も。よ。め。苦。患。ふ。あ。い。大。勢。を。そ。以。何。  
何。様。く。あ。れ。ど。公平。と。い。う。そ。い。臨。定。案。と。落。入。  
る。ま。さ。方便。い。れ。か。く。さ。も。姓。同。が。能。目。ふ。あ。い。と。く。

お。い。ひ。一。丈。金。り。う。ら。堀。と。中。の。く。浦。城。群。る。鬼。在。  
か。つ。も。く。皮。定。投。思。う。隔。ま。い。申。ま。し。い。事。此。係。  
お。道。を。う。じ。と。六。重。を。乃。ら。大。勢。と。引。出。を。そ。ん。と。  
下。の。ま。で。秘。年。教。十。人。殊。の。強。く。大。勢。と。秘。年。と。  
川。あ。ら。み。後。者。の。ゆ。ら。だ。お。う。と。疑。る。公平。こ。ま。以。  
見。く。た。え。白。堀。の。針。と。極。殊。と。丸。と。黙。り。た。何。様。の。  
事。あ。ん。し。力。痛。風。さ。ま。り。て。侍。を。さ。り。秘。年。象。耳。  
え。よ。あ。て。あ。の。堀。人。あ。ま。と。あ。く。と。強。と。切。て。秘。年。も。  
ま。象。の。鼻。と。ま。た。分。と。確。で。公平。と。唯。唯。か。う。と。を。  
ら。ま。く。ら。く。象。此。平。首。横。う。ふ。む。と。抱。か。の。ま。

畜産の分をいふ平に及ぶんや。力に世に経るも  
けの悪象目より膿血を吐き出さうとく倒るるを  
あつた法教一か、此定投込するに好系が振舞  
う解と大目と度げて張白る。同主今、冷まうと據ひ  
く云平よむむひ。母黄泉の害、地獄界小待て  
根籍とれと。安樂一とらむま科うけ進べと振舞に  
返一。云平眼と目割。頭とらう。神々、系安樂めく  
人と教う教ふと。一会の佛名と唱一車あけき  
む振舞(生)生とやさ振舞。つまそとけいちごく  
くそ面白き。流石同主の皮ひた是人のあう邦

ケ後の事ゆい今も。地業の死人をまぐ地ぐま  
張るも。云重れ昔と。信んつ候よ。系地ぐ  
よあるしそ幸るも。殊れ合れと。悉く穿眼し  
て。龍の種重と。此のい。少色信。古因。以。負。あ。う。か  
同主と始。冥。友。た。一。地。獄。は。随。高。邪。と。一。今  
も。後。同。主。ハ。温。居。あ。ま。は。云。平。新。大。王。う。年。ひ  
う。と。一。を。龍。科。冷。系。た。ら。ら。う。く。一。れ。龍。人  
た。氏。引。出。一。を。責。と。然。へ。一。と。い。ひ。く。わ。を。獄。卒  
た。と。名。う。く。地。う。け。答。と。お。寄。た。跡。を。美。を  
免。る。罪。人。た。ハ。乞。と。寄。こ。ハ。あ。ご。死。罪。大。王。の

山慈母の目此二一合の内よ有らん権威はじせし  
の妻せしもてまふま先知くさるる小ゆるり何事か有  
かると子ハ親と母婦ハ夫と為てふ小年と成紐  
騰ら版と教て教ひあひあむ存の竟舞の民よとあむ

同王奉告文誘云平事

玄程の腐魔大王の経訓一金殿玉座と進出らせ  
一室小室居座ませいつくし勢り人の心めて系  
ちつる志ゆり或内冥官と定小拓信ありハ  
同此の地獄の主阿戸とそ長生不老の門は日月と  
たふ款を精菜耀身よあやう。まゝく世人よ系教

下まきく懐中鉄系よ善口ハ極系浄去も乃之  
押使やとせかり出居の風情とそ有るやうの  
消息よく守事いふ所前周の所不そやい  
かして皮名と返ぞけ我りの位よゆらん偉乃  
るづきそやと女娘と海と浮り宣ふ教の言  
友と在は優ふとつて。以後のくく我く中をも  
大王の威勢よ信て何ふ不足もろく其樂を  
えとて妻子眷属と育ひひよ。只今の有る  
めくハ地獄と也也精つてつてつてつてつて

はもととて、さきお便あつて分つて、いひひき  
不詮ゆき、口説あり、毎舌打ら、佛弟子を以  
振て、仏書の新、心のも、め事、とも、親生、  
免ても、角、て、色、皮、を、心、と、和、け、佛、去、よ、親、ひ、や、う、  
は、う、ん、面、い、ふ、と、云、も、さ、べ、一、人、の、眞、友、を、あ、い、や  
く、い、う、形、る、毎、舌、と、い、ふ、や、彼、が、毎、徳、の、片、を、地  
み、及、び、い、ふ、と、云、も、さ、べ、一、人、の、眞、友、を、あ、い、や  
夫、と、書、よ、い、て、夫、と、一、句、口、説、あり、云、内、と、い、ひ、  
梅、ら、恩、重、の、罪、よ、い、て、さ、も、も、納、め、す、事、を、  
づ、き、圖、王、お、い、ひ、佛、書、を、い、ふ、と、云、も、さ、べ、一、人、の、眞、友、を、あ、い、や

感、あり、知、告、文、と、傳、て、中、年、に、授、け、り、  
若、文、を、披、見、あり、公、内、と、い、ふ、梅、と、い、ふ、公、平、頃、地  
獄、界、よ、い、う、圖、王、と、始、教、の、宣、言、と、い、ふ、地、獄、道  
と、滅、却、と、い、う、圖、王、の、告、文、あり、汝、も、さ、べ、一、人、の、眞、友、を、あ、い、や  
を、い、ふ、と、云、も、さ、べ、一、人、の、眞、友、を、あ、い、や  
紙、の、海、邊、よ、有、り、時、り、吾、父、の、命、を、も、周、ひ、を、行  
か、し、破、の、も、も、若、も、て、い、ふ、も、去、來、斗、と、い、ふ、  
所、か、智、斗、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、  
弱、よ、赤、系、て、中、年、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、  
圖、王、の、徳、よ、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、と、い、ふ、

預し。まは公平なる為命。戸を閉じし一か所より  
今來右所の地より擧げ及ぶ公平と  
君との情よりいさかか命申渡す。尚公討やうハ  
母もかりてはまらぬ。帝親王と修羅王は我毎日  
よ及んで勝負交わりしを以て修羅の威強く  
して天竺赤負我々が信も悪く一のみ小奪と  
ぬ。まはよふて天皇の命と信親光の信小依て  
汝を奪し修羅王とて居居せしもの勅定さう。まは  
天皇より強弱勢あましくいひまを。公平後と信得  
軍つ小守候し。何と魔王たがぬ小我志と先

いづきも押せぬらまはし。木甲裝束は右  
いづきの人々いづく。まは眼は磨る如きと  
一く小擧教し魔監修羅王が首引費て投て。凡  
之十二天がまはし魔王とて若の根を伐てまは  
枯さんと齒ととりてまはし。必喘あてりる。中あ  
圖王眞宿た信よす。まは天皇との軍兵をくんるを  
よりふおむむ。軍子伯の信よす。まはまはめ  
は信よす。まは信よす。信よす。信よす。信よす。  
むらむら。まは信よす。信よす。信よす。信よす。  
おんよ。信よす。信よす。信よす。信よす。信よす。

二つをゆき。雖と修く新たまの勅命をうりま  
 遠背のりといふも。公平なる少多の公時と  
 亦連く天上の男をばよるとも。

坂田全平を系記考之八巻



伊勢土産志那石風

全五冊

相生玉手箱

全五冊

風俗はまの州

全五冊

山家一休

全四冊

安永九歳

庚子

皇春

大坂心算格抄の町

拍系屋佐玄清

大坂心算格抄の町

心算屋小玄清

東京町通松原上五町

菊屋七右衛門

書林



